

【AutodeskRevitではじめるBIM実践入門】正誤表				
No	頁	部位	誤	正
	60	(5)の次		マウスを少し右に動かして3点目をクリックします。
1	89	図の中の②-③通り間の寸法	2200	2170
2	89	図の中の㊸-㊹通り間の寸法	6000	6200
3	97	(6)の挿絵	(6)クリックの位置が壁	(6)クリックの位置がドアの中央
4	93	1行目	<タイププロパティを合わせる>	ver2017では<タイププロパティを一致させる>
5	102	(1)の説明	、外壁の内側の壁に洗面カウンターの壁側に線を合わせます。	、外壁の内側の壁の線と洗面カウンターの壁側の線をクリックして、外壁に洗面カウンターをくっつけます。
6	115	(5)の1行目	(5)2階平面図ビューに戻り、	(5)1階平面図ビューに戻り、
7	124	(2)の説明	[断面ボックス]	[断面ボックス](2017では[切断ボックス])
8	131	(20)の右の挿絵		右上の「外観」を赤枠で囲む
9	148	(3)の3行目	[切り取り]	ver2017では[切土]
10	155	(5)の挿絵	(5)クリックの位置「グリッドに沿って移動」	一つ下の「部屋の境界」
11	164	(3)の挿絵	(3)クリックの位置「現在のビューにテンプレートプロパティを適用」	「現在のビューからテンプレートを作成」
12	171	(5)の挿絵	「フッタ」にチェック無し	「フッタ」にチェックをいれ、「タイトルと合計」
13	172	(7)の挿絵	「合計を計算」にチェック無し	「合計を計算」にチェックをいれる
14	177	(5)の説明		「エリア規則を適用」のチェックを外して作成します。
15	178	(3)の挿絵		並び替え「タイプ」を赤枠で囲む
16	179	(5)の挿絵	「データの前に空白行を挿入」にチェック無し	「データの前に空白行を挿入」にチェックを入れる
17	192	(2)の3行目	.rfa	.rft
18	198	(8)の挿絵	クリック位置「プロパティ」	一つ右の「ファミリタイプ」をクリック
19	200	(1)の3行目	.rfa	.rft
20	201	(5)の説明		最後にモードを終了します。
21	208	(2)の2行目	.rfa	.rft
22	224	挿絵	最上段の「ラインワーク」	「ラインワーク」(ver2017では[線種変更])
23	225	「ビューのグラフィックスの上書き」の1行目	<表示>タブの	<修正>タブの
24	263	(5)の挿絵		「ソリッド/ボイド」ボイド を赤枠で囲む

【AutodeskRevitではじめるBIM実践入門】補足			
No	頁	部位	補足
1	40	memo	「製図ビュー」だけでなく、「凡例」も2D空間です。
2	46	選択する方法	1),2),3),5),6)の操作はAutoCADと同じです。
3	53	トリムする方法	残る方をクリックするのはAutoCADと逆です。
4	64	敷地DXFデータの読み込み	ここに書かれている方法が簡単で分かりやすいのですが、この方法だとCAD側の線種などが流れ込んできてしまいます。それを避けるには、一旦別のRevitファイルにてDXFデータを読み込み、そのRevitデータをリンクで挿入するという方法があります。もしくは、そのRevitデータにてDXFデータをなぞってRevit側で線を引き直し、その線データをプロジェクトファイルに取り込みます。
5	96	(3)でファミリーが見つからない場合	C:\ProgramData\Autodesk\RVT2017\Libraries\Japanを探してみる
6	99	ファミリーファイルの挿入方法	[挿入]→[ファミリーをロード]で挿入するとエラーにはなりません、そのまますぐには配置できません。他の方法では、そのまますぐに配置できます。
7	205	(5)の説明	ver2017では、[ビューコントロールバー]の「プレビュー表示オン」でプロジェクトにロードしなくても表示・非表示の確認ができます。
8	232	2行目 高さの情報を持ちません	詳細線分は実際には高さの情報を持ってはいるのですが、表面にはあらわれません。モデル線分に線種を変更すると、持っている高さ情報の位置でモデル線分が変わります。
9	266	ポシェの設定	ポシェの設定を有効にするには、3Dビューのタイプの編集で「簡略時のポシェマテリアル」の項目を「ポシェ」にする必要があります。 2017まではこの初期設定が「ポシェ」なのでそのまま良いのですが、2018以降は「カテゴリ別」になっていますので、「カテゴリ別」から「ポシェ」に変える必要があります。